

県立大潟水と森公園のハスは「不忍池斑蓮（しのばずのいけまだら はす）」と判明 ～鶉ノ池と鶉池つながりの謎～

大潟水と森公園事務所

大潟水と森公園と接する「鶉ノ池」に今年もハスの花が咲き始めました。今年の
高田城址公園のハスの開花が6月18日でしたのでかなり遅咲きとなっています。

花の特徴は大型で白花、花弁の縁に紅紫色が斑になっていることです。

食用に植えられたハスではないか聞いていましたが、昨年新潟県立植物園の倉重園長
から「大潟の公園のハスはどうも普通のハスとは違うのではないか」との指摘があ
り、詳細が分かる写真を撮り、園長からハスに詳しい京都府立植物園の山本氏に品種
の同定をお願いしてもらいました。品種は「不忍池斑蓮（しのばずのいけまだら
はす）」という「観賞用」のハスであることが分かりました。上野の不忍の池は三つに分
かれており、その一つが鶉池と呼ばれており、奇しくも大潟の鶉ノ池と同じ呼称であ
ることが分かりました。

大潟の鶉ノ池は寛永年間（1624～1645）に築堤されたと記録されています。その
後、誰がどのような経過をたどって池に植えたのか。大潟の「鶉ノ池」が上野と同じ
呼称となっているのは何故なのか。興味深いです。

ハスの開花期間は7月中旬から9月中旬頃まで、丸山古墳に至る「歴史ゾーン」散
策路等から見るすることができます。

大瀧のハス 不忍池斑蓮（しのばずのいけただらはす）



—————以下倉重園長のコメントを引用—————

不忍池（しのばずのいけ）は、上野恩賜公園（東京都台東区）の中に位置する天然の池で、1600年代後半には蓮が生えており、明治時代まで東京を代表する蓮の名所として知られていました。この頃にどのような品種が栽培されていたかは不明ですが、「本草図譜」（岩崎灌園 1828年）には、「不忍池斑蓮」の名があげられていることから、江戸時代末期には不忍池に本品種が存在していたと思われます。また、昭和10年の植物学者である大賀一郎博士（2000年前の地層から古代ハス（大賀ハス）の種子を発見、開花に成功）の不忍池の調査では、不忍池斑蓮を含む10品種が記録されました。

その後、戦後の食糧難で不忍池は田んぼとして使われ、その時代に一度ハスはなくなるとされていますが、愛好家によって栽培されていた不忍池斑蓮などの4品種が現存します。



<http://umdb.um-u->

[tokyo.ac.jp/DShokubu/Honzo/LLPic.php?FolNo=0838&PicN=img0009](http://umdb.um-u-tokyo.ac.jp/DShokubu/Honzo/LLPic.php?FolNo=0838&PicN=img0009)

京都府立植物園の山本氏によれば、‘不忍池斑’は、愛好家であれば普通に入手できるが、容器栽培では花上がりが悪いため、栽培している方はそれほど多くないとのことでした。また、斑蓮系統にはさまざまな品種があり、外見上から斑が多いタイプと少ないタイプの大きく2つに分類されるが、DNA解析の結果から、全ての斑蓮品種は同一であることが明らかとなっていることもご教示いただきました。

上野公園の管理事務所に確認したところ、不忍池の鵜池は戦後にできたが、名称等

についての詳細は分からないとのことでした。